

阪神電車とグループ120年のあゆみ

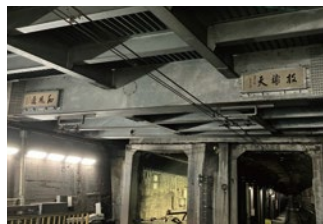
2025年4月12日(土)、阪神電気鉄道は開業から120年を迎えます。グループ会社とともに、お客さま一人ひとりの“たいせつ”に向き合い歩んできた120年を、懐かしい写真を交えて振り返ります。

第2回 1925(大正14)年～1944(昭和19)年

大阪・神戸両市内延伸などで路線を拡充、戦争で多くの事業が統制対象に

国道線の開通と梅田・三宮への地下線での乗入れ

1919年に阪神間を結ぶ新国道の建設が決定されると、阪神電気鉄道は並行する新国道上の軌道敷設を出願、1927年に阪神国道電軌により国道線を開通しました。一方、阪神本線は、軌道条例適用のため併用軌道とした区間が高速運転の支障となっていました。1933年に最後の併用軌道区間である岩屋～三宮間の地下線が完成し、梅田～三宮間が35分で結ばれることとなりました。1936年には当時の神戸市中心地・元町へ延伸。さらに大阪側でも新たに建設される地下鉄との連絡のため御堂筋まで延長することとなり、1939年に現・大阪梅田駅の位置に4線を擁する地下駅が営業を開始しました。



堀啓次郎社長(当時)直筆による「技補天*」「和風通*」の扁額(岩屋駅地下線入口)
※技補天:工事や技術に関する取組みの姿勢、和風通:快適なサービスや乗り心地の提供

甲子園地区の総合的都市開発と六甲山レジャー事業の展開

阪神電気鉄道は、甲子園地区に42万坪以上の用地を確保し、総合デベロPPER事業を展開します。経営地を貫く甲子園線を開通さ

せ、野球場に続き海水浴場、庭球場、プール、南運動場を相次いで整備。1928年に住宅分譲を開始し、商業的な成功を収めると、1929年には阪神大博覧会の会場設備を利用した甲子園娯楽場(のちの阪神パーク)を開設。映画場や動物園、水族館を備え、多くの来場者で賑わいました。1930年に開業した甲子園ホテルは、建築美と庭園美を併せ持つ阪神間の社交クラブとして象徴的な存在に。そして1935年には、甲子園球場を本拠地とするプロ野球チーム・大阪野球倶楽部を設立し、大衆娯楽として人気を博すこととなります。早くから避暑地として着目していた六甲山では、1927年に表六甲中心部を買収したあと、六甲越有馬鉄道を傘下に収め、1932年に六甲ケーブルを開業。別荘地の分譲、高山植物園・カンツリーハウスの開設、旅館・ホテルの建設、山上循環バスの運行などを次々と手掛けました。



戦前の阪神パーク

戦時下で武庫川線が開業する一方、多くのレジャー施設が休止に

戦時体制で新規投資がままならない中、軍需路線として1943年に武庫川線武庫川～洲先間がわずか100余日の突貫工事で開業。翌年には省線(現・JR)と接続し、貨物輸送を開始しました。一方で、

CHECK!



「たいせつ」がギュッと。ラッピングトレインで、ポスター企画「阪神“たいせつ”ストーリー」と「Hanshin 120th Gallery(阪神120thギャラリー)」がスタートしました!ぜひチェックしてください。

★阪神グループのブランド価値経営に関する取組みを発信しています。

<https://www.hanshin.co.jp/taisetsu/>



甲子園地区では阪神パークと水族館、南運動場、国際庭球倶楽部が閉鎖。球場は鉄傘が撤去されることとなりました。六甲山ではゴルフ場が閉鎖し、ホテルが廃業に追い込まれたほか、六甲ケーブルも不要不急線として休止となりました。



武庫川線武庫川停車場(三線軌条式)

年表

1926.7.16	甲子園線甲子園～甲子園浜営業開始
1927.7.1	国道線西野田～東神戸営業開始
1929.7.6	甲子園娯楽場を開設
1932.3.10	六甲越有馬鉄道土橋～山上ケーブル営業開始
1933.5.1	六甲高山植物園を開設
6.17	本線神戸～岩屋改良線(地下線)開通
1935.12.10	大阪野球倶楽部を設立
1936.3.18	本線三宮～元町営業開始
1937.6.30	六甲山カンツリーハウス開設
1939.3.21	本線梅田～曽根崎延長線(大阪駅前延長地下線)開通
1943.11.21	武庫川線武庫川～洲先営業開始